

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690800022		
法人名	トータル・メディカル津沢株式会社		
事業所名	グループホームひだまり砺波		
所在地	富山県砺波市千代323番地1		
自己評価作成日	令和3年2月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山市安住町5番21号		
訪問調査日	令和3年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>一人ひとりの気持ちや個性を大事にして、その人らしい生活を提供する。</p> <p>家庭的な雰囲気のなかでリラックスして過ごして頂けるように努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・国道から少し入った田園地帯にあり、チューリップ畑などに囲まれて地域に馴染んだ雰囲気である。 ・法人は複数のグループホームを運営していることもあって、利用しやすい建物となっている。 ・密な話し合いや会議を開催して、経営陣と管理者の思いが共有されている。 ・本来のケアプラン様式とは別に、利用者の生活スタイルを意識したサービスができるように、プランから求められるサービス内容をわかりやすくまとめた書式を配置するなどいろいろな工夫が見られる。 ・2ユニットのそれぞれのリビングにはアイランドキッチンが備えられ、スタッフは利用者の顔を見ながら交代で調理やおやつの準備をしている。 ・訪れた日の利用者は窓からこぼれる暖かな光の中で、キッチンを眺めたり、テレビを見て体操をしたりと、思い思いに過ごしている。それぞれが自由に過ごす様子からも穏やかな日々の様子がうかがわれる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（さくら棟）

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時、理念・基本方針の唱和を行い、確認して実践につなげている。 ユニット独自の理念を職員が考えて「感謝」とする。	理念は法人の理念を基にユニット独自のものを各フロア毎に職員間で話し合ってそれぞれ「感動」と「感謝」と決め、申し送り時に職員で唱和し共用と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の回覧板で情報を得ている。又、本年度は中止になったが、各行事(防災訓練・夏祭り)には、地域の人の参加をお願いしている。	自治会や町内会、民生委員の方とのつながりがあり、地域の防災訓練に参加、車いす等の社内物資の貸し出しも行っている。コロナ禍からは活動が延期となっているが、地域とは回覧板を通して情報共有に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会からの依頼もあり、災害時の一時避難所としての使用や地域住民の緊急時にはAED・車いすの貸し出しを行う。本年度は中止になったが、地区の防災訓練時には、車いすの操作方法の講習をおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、民生委員・市役所・家族代表の方の出席で報告を行い、話し合いをしている。本年度は、10月のみ施設内開催となり、他は書面での報告となる。	10月は何とか開催したが、それ以外は書面報告のみとなっている。地域密着型としての利用者は組合保険者なので、他の市町村の方もおられるが、構成委員としては砺波市の方だけである。	利用者の状況や情報は、馴染みの人や場との関係継続、及び関係を断ち切らない取り組みにとっても有効と考えるので、それぞれの利用者にとっての地元からの構成員を加えることなども検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議の出席や包括支援センター主催の研修に参加し、情報の収集につなげている。本年度は4回しか出席していない。	感染症による規制の中で、対面での連携は思うように出来ていないが、過去の実績や経験から、電話や書面等で必要なことは連絡を取り合って連携を継続することに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は禁止しており、身体拘束ゼロ宣言の張り紙をして実践している。 定期的に拘束委員会を実施している。	身体拘束について拘束委員会を設け、全体研修を行い全職員に周知している。センサーマットを数名利用しているが、あくまで転倒防止・予防の為に職員間では共通認識されている。また、過去に見られた安全ベルトの使用は見られない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為、特に言葉による暴力をさせない。お互いに気づいたときには、注意し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名に成年後見人(司法書士)がついており、月1回以上来所され、その都度相談していたが、本年度は電話での対応のみになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時、必ず施設の見学をしていただき、施設の内容と御家族様の要望や疑問について話し合い、理解して頂いた上での入居に心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時には、必ず御家族様の要望を聞くようにしている。また、管理者の携帯には24時間対応の体制をとっており、ラインや直接の電話での対応も行っている。	家族とは面会時などで話し合う機会を設けている。また、管理者は電話やメールでの24時間対応にも努めている。コロナ禍からは玄関先での面会になっているが、管理者を中心として利用者や家族が満足できる方法を模索している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを開催し、職員の意見を聞き、施設で対応出来ることはその都度改善している。又、会社の問題であれば、月1回の管理者会議で検討したり、上司に直接進言したりして反映させている。	管理者は月に複数回の事業所会議やミーティングで職員の意見を聴き取っている。その意見や要望を法人全体の管理者会議等へ報告して全体で共有、改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常時、事務所内のロッカールームの入り口に就業規則の冊子がつるしてあり、誰でも読むことができるようにしてある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月各事業所主催の研修会を開催し、個々のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議の出席や包括支援センター主催の研修に参加し、同業者との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の話を傾聴し、何を訴えているか知り、気持ちに寄り添った対応を心掛けて、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様には、申し込み時に必ず施設の見学に来て頂き、その時に、困っている事、不安な事、要望など細かく聞き、施設の対応などを詳しく説明し納得して頂いた上で入居して頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申し込み時、家族様の意向、利用者様の様子などを見聞きして、施設内で出来る対応や家族への必要な協力内容お話し、納得して頂いてからの入居の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとりで孤立する事が無いよう、できるだけホールで過ごし、共同生活の一員として、楽しく過ごして頂くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会や外出を無理の無い程度にお願いし、又、年2回家族参加のイベント(納涼祭・クリスマス会)を開催しているが、本年度は中止する。毎月家族へ機関紙・お便りを出して様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達・知人の面会も遠慮なく来て頂くよう声がけし、実際来て頂いていたが、今年度は面会の自粛をお願いした。電話での対応により関係を継続している。	友達や知人などの面会、馴染みの床屋や美容院に出掛けていたが、コロナ禍からは電話対応で関係が継続されている。外出を控えているため、訪問理容を利用している。コロナが収束したらすぐにも開始できるように準備している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の利用者様とコミュニケーションがとれない方や耳が遠い方が孤立しないよう、常に職員が間に入って、利用者同志の関係が上手にいくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、連絡を下さるご家族様もあり、相談に対しては親身に乘っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に聞いた情報と共に、生活しながら、本人様や家族様からの新たな情報や希望、言動など気付いた事を記録に残し、思いや意向の把握に努めている。	一人ひとりの思いを日常生活から聞き取り、困難な場合は家族の意見や本人の表情から思いなどを感じ取り、全職員がクラウドアプリ記録を基に把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人様、家族様より以前の生活を聞いたり、介護保険組合より情報をもらったりして、現在の生活に取り入れ、その人らしい生活を送っていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者様のペースで時間を過ごして頂き、無理強いせず落ち着いて過ごしていただくよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が各部屋担当にモニタリングをしてもらった記録を基に、現状に応じた計画を立てている、又、月一回のミーティングで意見交換し、情報の共有を行っている。	各部屋担当者はモニタリング報告書を介護計画作成者に提出し、毎月のミーティングで職員と話し合ったり、利用者の日常生活をクラウドアプリに記録し全職員で情報共有している。計画作成者はケアプランを各フロア毎に見やすい場所に置いてあり、職員は閲覧することが日課になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子や変化を記録し、朝・夕に送送りを行っている。又、早急な事柄は連絡ノートに記入して対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の健康状態の確認を行い、異常がある場合、それぞれの主治医・家族様と連絡を取り対応している。又、急な受診は施設で対応し、家族様の負担の軽減と早い対応に努めている。又、買い物の代行や図書館からの本の貸し出しなど利用者のニーズに応えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の防災訓練に参加し、車いすの操作方法の講習を行っているが、本年度は中止となる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者1名以外は事業所協力医がかかりつけ医で週2回往診して頂いており、異常があれば速やかに連絡し指示をいただいている。事業所協力医がかかりつけ医で無い1名の方に対しても異常があれば、事業所協力医に連絡を取り指示をいただいている。	協力医院がかかりつけ医の利用者は、月2回の訪問診療を受けている。コロナ禍からは協力医療機関以外の通院は、職員が付き添ったり、家族がかかりつけ医に電話をしたりして薬を貰っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に来る看護師には、来ない日でも気になる事があれば施設共有のライン等を通じて連絡をとり、情報の共有や指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族様の負担を軽減するため、施設で出来る対応は施設で行っており、こまめに家族様や医療機関との連絡をとり、経過や退院後のケアについての意見交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明でも、重度化した場合を想定した内容での説明を必ずしており、ターミナルケアについても選択肢の一つであることは伝えている。本年度はないが、過去には医師・看護師・当事業所の訪問看護と連携し、3名の看取りを行っている。	最近2年ほどは看取り事例はないが、入居時に看取りについての話し合いがされている。急変時の対応は早い段階から関係者と話し合いを重ねている。本人や家族の希望に沿って可能な限り支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	前年度は消防署より、AEDの扱いと人工呼吸の講習を職員対象で行ったが、本年度は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は日中・夜間対応で、それぞれ行っている。水害に対しては、マニュアルは作成してあるが、実際の訓練は行っていない。	年2回、火災訓練を実施している。水害指定区域には入っていないが、避難先への訓練として地元保育園まで車移動を行っている。震災訓練は砺波市からの連絡を受けて、テーブルの下に入るなど実施している。地域の方々から事業所を避難場所にしてほしいと話が出ているが、地域との連携はあまりされていない。	今後、各種災害に対応した避難訓練を実施し、地域の方々にも協力を促していくことなど検討してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねる言葉使いや、対応に気をつけ、トイレ誘導の声がけ等もさりげなくプライドを傷つけないよう配慮したり、訪室するときも一声かけて入室するようプライバシーに配慮した支援を行っている。	管理者は、常日頃から利用者に思いやりの言葉と態度で接すると共に、穏やかな雰囲気づくりに心掛けた支援を職員全員に強く求め、職員も十分に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からの会話や様子から、本人様の希望・要望を把握し、いくつかの選択肢からなるべく自己決定していただくよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちを大事にして、できる限り本人様の要望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や朝に着替えて頂き、気に入った服を着ていただいている。また化粧品の購入や美容室へも職員が同伴していたが、今年度は自粛している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的に職員が、買物・準備・配膳・下膳を行っている。食事は職員と利用者様が同じテーブルで食べていたが、本年度は感染防止の為、別々に食べている。	職員は利用者と一緒に同じ食事をしていたが、コロナ禍からはマスク着用になったため食事の見守りに変更している。献立は栄養士が作成し、職員が買い出しに行き各フロア毎に調理を行っている。利用者はコロナ収束後に職員と一緒に食事が出来る事を楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立に基づいて調理し、個別にきざみ食・ミキサー食やトロミ等の対応をしており、食事・水分の摂取量を記録し少なければ、適宜摂取するよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声がけをし、自立の方は見守り確認をし、介助の必要な方は、過剰介護にならない様、できない部分を介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを記録より把握し、パットの使用を抑え、立位が出来る可能性のある利用者様はトイレでの排泄を行っている。一人で立てなかった利用者様が立てるようになった例もある。	一人ひとりの状態に合わせた排泄の自立支援に取り組んでいる。寝たきりにならないようにトイレ誘導にて排泄を行っている。車いすの方は自走で自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、水分摂取・運動・食べ物を工夫しており、おやつ時にはヨーグルトを提供し自然排便ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回入って頂くようにしているが、希望者には、その都度できる限りの対応をしている。	入浴は週2回になっているが希望があればいつでも入浴することができる。機械浴、一般浴、シャワー浴と利用者の状態に合わせた支援に努めている。入浴剤を入れてリラックス効果の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本、ホールでの生活を楽しく頂くようレクリエーションをしたり、話し相手になったりしているが、利用者様の希望に対応しており、夜間でも寝られないときは、お茶を提供したり、話し相手になったりして安心して過ごして頂くよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護師がしており、誤薬や飲み忘れが無い様、その都度2重チェックし、一人で確認せず他の職員も必ず確認しての服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除の手伝い・洗濯干しやたたみ等、各々出来る利用者様には、お願いしている。左麻痺で、自立歩行も不安定だった利用者様が、毎日の手摺り拭きで改善したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族との外出や、利用者様の希望があれば、職員が付き添っての買物や美容院への外出も行っていましたが、本年度は自粛しており、施設の周りや畑の手伝いが主である。行事予定で外出したのは、花見とコスモス見学のドライブだけである。	家族と一緒に出かけたり、買い物、夢の平のコスモス、さくら等の花見に行ったりとドライブを楽しんでいる。コロナ禍からは近隣の散歩や庭で日向ぼっこ、畑仕事を眺めて過ごされている。ポスト投函物を取りに行く利用者が見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	3名の利用者様は、財布に数千円を所持しているが、本人の必要なものは、職員の買い物時、購入し、家族様に請求をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の同意を得ている利用者様には、好きな時に電話をしてもらっている。2名携帯電話を使用していたが、1名、前年入院後に使用しなくなり、現在1名使用しており、電池が無くなれば充電を施設で行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は古民家を意識して、和風の雰囲気です、季節に合わせて飾り物や花を飾ったりして、落ち着いて暮らせるよう工夫をしている。	天井は高く木製の梁が見えたり、電気に和紙を使用したりして、和風の雰囲気を醸し出している。花や貼り絵などで季節感を出し、床暖房が暖かく利用者はソファーでの昼寝が心地よい場所となっている。木製テラスがあるが、有効な活用は見られない。	各フロアに木製テラスがあるが、物干し場や物置になっている。利用者にとって有効な場所として活かされるような検討が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファーが置いて有り、そこで過ごされたり、暖かい時は、ベランダにてみんなでおやつを食べたり、庭のベンチで日光浴をしたりとゆったりと過ごして頂くよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はプライベートな空間として、テレビや馴染みのものなど自由に持ち込んでもらっている。部屋担当が決まっており、常に整理整頓を行い気持ちよく過ごして頂くよう努めている。	居室はベッド、タンス、エアコン、洗面台の取り付けがあり、持ち込みはあまり見られなかった。綺麗に整理整頓されている。窓も危険防止の為、施錠されている。	利用者毎での居心地の良い空間とはどんな環境なのかを話し合うなど、居心地のよい空間の実現についての検討を重ねてほしい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはクローゼット・エアコン・洗面台が設置しており、自由に使用できるようにしている。		

(様式4)

事業所名 グループホームひだまり砺波

目標達成計画

作成日: 令和 3年 5月 31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	52 54	現状の施設の共有空間や居室の環境をもっと工夫して有効に活用し、利用者にとって居心地の良い空間にする。	利用者毎に居心地の良い空間を提供し安心して暮らしてもらう。	施設内の整理・整頓を行い、備品等の配置の見直しをおこなう。 利用者に対して、モニタリング、聞き取りを行い必要な物があれば、家族とも相談して利用者にとっての居心地の良い空間を作る。	12ヶ月
2	4 35	地域の交流をもっと積極的に行い、利用者と地域の交流を絶ち切らないような工夫が必要。	地域や施設の行事等に参加できる機会を増やす。	自治会等の地域への協力を働きかける。 馴染みの方が、イベント等に気楽に参加できるように自治会や家族等に協力を促す。	12ヶ月
3					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。
複数のユニットを有する事業所において、事業所全体でユニットごとの目標の総括を行う場合は、本様式を1つ作成してください。